

6. 指定管理者制度の導入(平成18～19年)

平成18年度から指定管理者制度が導入され、3年間財団法人鎌倉市芸術文化振興財団が事業の運営を行うことになった。開館当時は、市職員が派遣され、補助金と委託料で運営されてきたが、指定管理者制度導入を機に、市関係職員の引き揚げと利用料制度導入が実施された。

また、参与を廃し、館長を任命し、本格的美術館としての体制を整えた。

展示事業は、特別展を年2回から3回に増やし、開催時期も来館者の多い季節に行うことにした。講演会は年1回から春・秋の2回となり、様々な角度から清方の芸術について論評がなされている。調査研究は、挿絵画家時代の研究を『新小説』や新聞『人民』などの他に、清方が活躍した展覧会にも対象を拡げ、烏合会展覧会や、開催から100年を迎えた官展に焦点を当て、その研究の成果を叢書図録として刊行した。

展示解説は、新たに市民サポートスタッフも加え年60回に達した。また、子どもプログラムもスタートし、春・夏の2回開催している。

7. 新しい展開(平成20年～)

開館10周年を迎える平成20年1月、京都駅に隣接した美術館「えき」KYOTOにおいて、当館コレクションによる開館10周年記念の「鏑木清方の芸術展」が開催され、約2万人の入場者を数えた。また、平成20年3月発行の『別冊太陽』で鏑木清方が特集されることになり、清方の画業を全国的に紹介する好機として、その編集に全面的に協力し、清方愛好者の獲得に力を注ぐことにした。

鎌倉市鏑木清方記念美術館は、これからも清方芸術の顕彰と普及のため、展示作品の保存管理、調査研究等に努め、市民をはじめ多くの人々の期待にこたえていく所存である。

凡例

- *本誌には、開館の平成10年度(平成10年4月17日～平成11年3月31日)から平成18年度(平成18年4月1日～平成19年3月31日)までのデータを掲載しました。
- *年度をまたがる展覧会、或いは、企画等については、開始時の年度に掲載しました。
- *展示作品に関するデータは、『鎌倉市鏑木清方記念美術館 開館十周年記念図録 鏑木清方名作集』(平成20年3月刊行)に掲載しました。
- *本館所蔵作品の詳細に関しては、
『鏑木清方記念美術館 収蔵作品図録—作品編』(平成18年3月改訂)
『鏑木清方記念美術館 収蔵作品図録—卓上芸術編(一)明治・大正期—』(平成14年7月刊行)
『鏑木清方記念美術館 収蔵作品図録—卓上芸術編(二)昭和期—』(平成14年9月刊行)
をご参照ください。

2 主な事象

平成 6年 3月	遺族から土地(955.27m ²)・建物(214.11m ²)及び作品の一部(26点)寄贈
平成 6年 6月	作品の一部(14点)追加寄贈(横浜美術館に一時保管)
平成 6年 7月14日	第一回(仮称)郷土記念館・美術館基本構想検討委員会(部会の設置・市の基本的方針)
平成 6年 9月29日	第二回(仮称)郷土記念館・美術館基本構想検討委員会(施設の目的及び性格)
平成 6年11月30日	第三回(仮称)郷土記念館・美術館基本構想検討委員会(施設整備の方向性・収集方針)
平成 7年 1月25日	第四回(仮称)郷土記念館・美術館基本構想検討委員会(施設構想)
平成 7年 4月26日	第五回(仮称)郷土記念館・美術館基本構想検討委員会(基本構想素案説明)
平成 7年 5月31日	第六回(仮称)郷土記念館・美術館基本構想検討委員会(基本構想まとめ)
平成 7年 6月	(仮称)郷土記念館・美術館基本構想検討委員会報告書提出 展示設計委託・基本設計・実施設計・地質調査委託・近隣住民調整を実施
平成 7年12月	12月議会補正予算(建設工事費・家屋解体工事費・家屋事前調査費)
平成 8年 4月	着工
平成 9年 8月	建物竣工・財団へ施設管理委託・作品の一部移管(横浜美術館→文学館・図書館) 点検等開始
平成10年 3月	工事竣工
平成10年 4月17日	鎌倉市鏑木清方記念美術館開館(開館記念式典開催)
平成10年 4月18日	「一所蔵品による一開館記念 鏑木清方展」(7月26日まで)
平成10年10月10日	特別展「清方ゑがく肖像画」(11月23日まで)
平成11年 9月10日	特別展「清方の描いた女性たち－雑誌『苦楽』の表紙にみる」(11月28日まで)
平成12年 9月22日	特別展「四季の女性」(11月26日まで)
平成13年 1月 5日	特別展「明治風俗十二月月 清方の意匠の羽子板とともに」(2月12日まで)
平成13年 9月14日	特別展「作品のできるまで」(11月18日まで)
平成14年 1月 5日	特別展・寿新春「一羽子板展」(2月11日まで)
平成14年 9月18日	特別展「清方の世界 卓上芸術へ」(11月24日まで)
平成15年 1月 4日	特別展「清方の見た東京の正月－羽子板展」(2月9日まで)
平成15年 4月25日	開館5周年記念「夏の別荘にて－金沢 游心庵」(6月8日まで)
平成15年 9月13日	開館5周年記念講演会
平成15年 9月14日	開館5周年記念特別展「清方の情趣」(11月24日まで)
平成16年 1月 4日	開館5周年記念特別展「新春の風情」(2月8日まで)
平成16年 9月14日	特別展「一東京の人 鏑木清方の巻」(11月23日まで)
平成17年 1月 4日	特別展「清方八景－新春の巻」(2月6日まで)
平成17年 9月13日	特別展「清方描く四季－季節の再来」(11月23日まで)
平成18年 1月 4日	特別展「新春」(2月5日まで)
平成18年 4月27日	特別展「大沸次郎の清方コレクション展」(5月31日まで)
平成18年 6月 3日	特別展「清方の叙情－金鈴社結成90周年記念」(7月9日まで)
平成18年10月21日	特別展「樋口一葉文学に惹かれて－樋口一葉没後百十年記念」(11月26日まで)

3 基本構想検討委員会名簿

※役職等は平成6年当時 50音順 敬称略

井上武吉	彫刻家
上野豊(会長 副部会長)	鎌倉風致保存会会長
大村貞雄	鎌倉市議会議長
河北倫明(副会長 部会長)	横浜市美術振興財団理事長
倉田公裕(部会委員)	美術評論家
黒岩重見	鎌倉市議会文教常任委員長
酒井忠康	神奈川県立近代美術館館長
蓼沼誠一	鎌倉美術家協会副理事長
鶴内明	湘北短期大学講師
鶴岡紀男	鎌倉市助役
中島千波	日本画家
中原佑介	美術評論家
花柳佳寿緒	鎌倉文化協会副理事長
藤井経三郎	クリエイティブディレクター
増田常吉	鎌倉美術家協会理事長
真鍋一男	横浜国立大学名誉教授
米倉雄二郎	鎌倉市教育長
相田昭(特別委員 部会委員)	株式会社白鳳社取締役社長
鈴木進(特別委員 部会委員)	東京都庭園美術館長
武田厚(特別委員 部会委員)	横浜美術館学芸部長
根本章雄(特別委員 部会委員)	株式会社宮内御園堂取締役副社長